

四年越し、関良基さんの講演会を開催

中山正光（11組）

8月30日(水)、高崎市総合福祉センターたまごホールにて、上田高校同窓の関良基さん(86期、拓殖大学政経学部教授)をお呼びして講演会を開催しました。

主催は筆者も属している日立製作所高崎工場 OB による高崎倶楽部で、私が当日の幹事を務めました。今回の参加者は会員26名で、演題は『蘇る江戸の憲法構想』でした。

予定した時間を大幅に超える講演となり、質疑応答の時間が無くなる想定外の出来事はあったものの、大変熱の入った集まりとなりました。

実は、関さんを招聘して話を聞く企画は2020年に作られていましたが、長引くコロナ禍により延期に次ぐ延期で、今回漸く実現の運びとなりました。

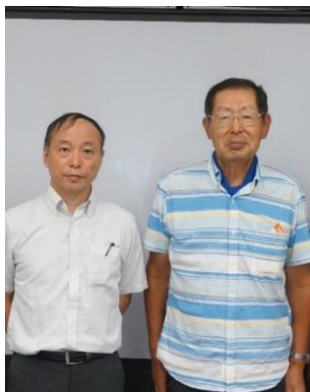
講演会后、会の責任者4人と関さんを交えての豊田屋(編集注:高崎で有名な料理屋)での昼食会では、以下のような質問が出ました。



講演する関良基さん

- ・鹿児島県は廃仏毀釈が激しかったが、破壊された仏教墓などは多いのか
- ・赤松小三郎は薩摩藩に招かれて教えていたのに暗殺されたのは驚いた
- ・関税自主権が低く工業化が遅れたというが、関税が低いため、日本人が頑張ったという意見があるが 等々

関さんはこれまでも幕末を舞台にした歴史書2冊を上梓しており、夫々評判が高いと聞いています(1冊目は『赤松小三郎ともう一つの明治維新』(2016年12月)、2冊目は『日



本を開国させた男、松平忠固』(2020年7月)、いずれも作品社より)。

関さんによると、今10月下旬には幕末関連3冊目の著書出版を予定しており、今回の講演内容と重なる内容とのことで発売が楽しみです。

関さん(左)と筆者

講演を聴いての創句です。

“残暑日や歴史の間口拝聴す”

前歩

(2023年9月5日記)

以上